

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～ 「^{せきふく}惜福」・「^{ぶんぶく}分福」・「^{しょくふく}植福」・・・幸福三説って・・・

イメージできますか？わかりますか？～

「惜福」・「分福」・「植福」・・・あまりなじみのない言葉ですね。よく、「あーあ。今回は運が悪かった。」「今回は運が良かった。」なんて言葉使っていませんか。米長邦夫さんが将棋界の名人位を獲得した時、『人間における「運」の研究』と題した本を出版し、ベストセラーになりました。

副題は「幸運の女神はどういう人に微笑むのか」、このフレーズも多くの人の心をとらえたのかもしれない。

米長氏は、運をよくするには心がけが大事と言い・・・

「**幸運の女神は謙虚さと笑いが好きで、そういう人に微笑むものだ**と

と言っています。

今回は、この『運』についてです。・・・では、どうぞ

運

また、「人をうらむ、にくむ、ねたむ、そねむ、ひがむ、やっかむ、・・・

そういう気持ちを持っている人に運はついてこない。」と断言されています。

渡部昇一氏（日本の英語学者、哲学者。歴史論・政治・教育・社会評論家。上智大学名誉教授）は、米長氏との対談で、幸田露伴の『幸福論』から幸福三説こそ運をよくする心得だと説かれている。

幸福三説とは、「惜福」・「分福」・「植福」であり、第一に大事なものは「惜福」で、「幸福によく会う人を見ると、惜福の工夫がある人である」と露伴は言っている。

惜福とは、たまたま自分に与えられた福を使い尽くし、取り尽くしてしまわない、ということ。

そういう人に結果として福が回ってくるようだ、というのである。現実の問題として納得させられる話である。

分福とは自分のところにきた福を独り占めしないで人に分け与えられるようにする。

この分福の工夫によって、より大きな福が来ることになる。

植福とは、例えば裏山に杉の苗木を植える。杉が大きくなるころ、自分は老いているかもしれないが、子孫に役立つことがあると思って木を植えておく。というようなことである。

以上が幸田露伴の幸福三説で、この工夫があれば運はめぐってくる可能性が高いようだ、と渡部氏は語っている。

30年前の対談であるが、人と運の関係についていまなお学ぶことが多い対談だと言える。

渡部氏は別の所で、「神様は、人のせいにする人は嫌いである。」と述べている。

「致知」4月号 特集「人間における運の研究」（致知出版社）より

「**勝負は時の運**」・・・ということばがあるように・・・

経営者とかリーダー、また、勝負の世界に生きる人は、運に対して敏感であり、その体験から、独自の運の哲学を持っている人が多いです。

次号では、それを紹介したいと思います。

